

東日本大震災に伴うメディアセンターの被害状況 および講じた対策について

せき 関 ひでゆき 秀行

(メディアセンター本部課長)

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災によるメディアセンターの被害状況および講じた対策について報告する。

1 人に関する被害

後述する大量の資料落下、一部の建物被害があったものの、春期休業期間中で利用者数が少なかったこともあり、地震による負傷者は出なかった。

震災当日は、交通機関の麻痺に伴い、各キャンパスで帰宅困難なスタッフが図書館内に残留する事態となった。三田メディアセンターでは 16:00~18:30 の間、新館 1 階北側フロアおよび手洗所を学内の帰宅困難者、および近隣からの避難者に提供し、約 130 名を受け入れた(その後、避難者はキャンパス内の他の施設に移動した)。

2 資料の被害

書架から図書、雑誌等の資料が落下する被害が全キャンパスで発生した。被害状況は以下の通り。

三田	新館地上階、旧館で多数落下。新館地下書庫、南館図書室、研究室地下書庫での落下はごく一部。
日吉	日吉図書館 2~4 階で多数落下。来往舎レファレンスライブラリーで多少の落下。協生館図書室、日吉保存書庫では落下被害なし。
信濃町	1~4 階で落下。特に 3~4 階雑誌書架で多数落下。地下集密書架でも一部落下。
理工学	本館 2 階で落下。雑誌書架で多数落下。
湘南藤沢	2~3 階の書架で大量の落下。看護医療学図書室でも全体の約半分が落下。
薬学	4 階書庫、3 階図書室でそれぞれ 30 冊程度落下。
白楽	4 階フロアで多数落下。3 階フロアでの落下は一部。

その後、各キャンパスとも書架への戻し作業を実施し概ね早期に復旧したが、湘南藤沢メディアセンターでは被害の規模が特に大きく、復旧に当たっては他キャンパス職員の応援も加わり、最終的に資料

を書架に戻し終わったのは 3 月末であった。

3 施設の被害

施設に関する被害は微細なもので済んだが、以下の被害が確認された。

三田	一部の書架で破損、倒れ込み。旧館・研究室棟地下書庫内で壁に亀裂。
日吉	2 階グループ学習室の壁に亀裂。
理工学	入口のガラス割れ。創想館とのつなぎ目破損。1・2 階で壁の亀裂数ヶ所。
湘南藤沢	3 階フロア天井内の配管に亀裂が生じ、そこから漏れた水で一部の資料汚損。(この配管被害は 15 日(火)に発生した静岡県東部地震によるもの)

4 システムの被害

今回の大震災で最も大きな問題となったのはシステムへの被害である。特に計画停電に伴う運用が困難を極めた。以下、経過を記す。

・3 月 11 日の地震発生時に日吉キャンパスが突然の停電に見舞われ、日吉メディアセンター内に設置していた図書館システムの基幹サーバー群がダウンした。このため、貸出等の利用者サービスと資料の受入・目録処理等の図書館業務の一切が行えなくなった。

・サーバーは 3 月 14 日の朝に再起動を行い復旧したが、日吉地区一帯が計画停電の区域となったため、その後は停電時間帯を意識してサーバーのシャットダウン、起動を行うという不自由な運用を強いられた。元々が頻繁な起動とシャットダウンを想定した機器ではなく、サーバー機器そのものへのダメージも心配された。

・その後、緊急避難策としてサーバーの一部を三田メディアセンター内に移設したことで、ほぼ通常通りのサービス・業務ができるようになった。(三田地区のある東京都港区は、結果として計画停電が実施されなかった。)

・3月22日に予定していた検索システム(Primo)のバージョンアップは延期せざるを得なかった(平成24年3月に実施予定)。

サーバーについては、9月現在においても三田と日吉での分散運用を継続しており、安定的な設置場所、電源設備の確保に向けて調整中である。

5 講じた対策

(1) 震災後の開館状況

震災直後から大学が休校措置をとったため、それに合わせて臨時休館および短縮開館を実施した。休校措置解除後は多くのキャンパスで短縮開館を継続したが、各キャンパスの授業開始時期、節電対策等と見合わせて通常開館に移行していった。また、学事日程の変更に伴い、春学期中は授業を行う休祝日に臨時開館を実施した。

(2) 利用者への配慮

震災後の閲覧サービスでは、過去の臨時休館(台風による臨時短縮開館や麻疹による休校に合わせた休館等)の際の対応を参考に、利用者の不利益にならないことを基本方針として対応を考えた。

・臨時休館や交通機関の混乱により返却手続きが行えないケースを考慮し、すべての貸出中資料に対して、4月末までの間、延滞の扱いとしないことを決め、利用者へ広報した。

・震災後の休館期間中に返却のために来館した利用者に対して、(館内利用はできないものの)返却本は受け取るよう柔軟に対応した(返却ポストまたは有人での対応)。

・システムから自動配信される「延滞督促通知」「返却期限事前通知」については混乱を招かぬよう震災直後に配信を停止し、4月に入ってからの配信再開に当たっては、4月末まで延滞を免除する旨の内容に文面を変えた。

・大学として卒業式の中止を決めたこともあり、3月に卒業する学生に対して、通常は受け付けていない郵送による返却を認めることとした。

・学外図書館から借用中の図書については、休館期間中に借用期間が終了しないよう、個々の図書館と調整を行った。

・返却期限日が休館期間中にかかる貸出資料について、返却期限日を延長する措置をとった。

(3) 被災地域の大学所属者への対応

被災地域に位置する大学に所属している学生・教職員に対して、希望に応じてメディアセンターを利用していただけるよう体制を整えた。震災直後から多くの大学図書館が同様のサービスを提供しており、その情報を網羅するポータルサイト等へも情報を提供した。5月までのサービスとしてメディアセンターのポータルサイトおよび各メディアセンターのホームページにて広報したが、6月以降も申し出があれば受け入れる体制を継続している。

(4) 被災地の小中高生に対して

震災直後に文部科学省から大学に対して被災地支援に向けた情報提供の要請があり、メディアセンターとして供出可能な小中高生向けの図書の冊数について情報提供を行った。その情報は文部科学省の専用サイトに掲載された。

(5) 節電対策

震災直後の電力不足に伴う大学全体および各キャンパスの節電方針に沿って、メディアセンターもエレベータの停止、照明の消灯等の節電を実施した。これは、その後の政府の要請に基づく夏期に向けた節電対策として継続している(政府の電気使用制限終了発表(9月9日)後も節電は継続している)。

6 おわりに

今回の大震災を機に学内における危機管理の意識が高まっている。今後は、各キャンパスの方針に沿いながら、今回の震災の状況を踏まえて、避難経路の再確認、対応マニュアルの整備等、危機管理体制の強化を進めたい。